

じょうこうじ

掟光寺だより

令和5年
10月号

行事案内

●10月11日(水)
「お会式&像師会」

13時30分から



日蓮から日像へ

像師そうしえ会というのは日蓮聖人の孫弟子に当たる日像上人のご命日に行われる報恩のご法要です。

日像上人がまだわずか御歳十四歳の時に、日蓮聖人の臨終の枕元にて「帝都(京都)布教」の大願を託され、人生のほとんどをそれに費やし、見事成し遂げた人物です。

京都布教を許される川当時の天皇に日蓮聖人の教えを公おおやけに認めてもらうことを意味します。本来であ

れば日蓮聖人ご自身でしたかったことであつたと思ひますが、ご法難を許されて身延の入れられた時には齢五十歳を過ぎており、ご高齡とご病気の為それは叶わぬ夢。そこで日蓮聖人は幼い日像上人の才覚を信じ、自らの弟子や檀家がいる前で日像上人にその夢を託すわけです。

●遺言を受け京都布教に向けて：

日蓮聖人が亡くなった後は、すぐに弘教の第一歩を踏み出したわけではなく、師匠である日朗上人(日蓮聖人が伊豆流罪の折、同船を請うて右手を折られた人物であり、日蓮聖人の布教や法難に長く付き従った人物。日像とは異父兄弟になる)に引き続き教えを請い、十数年に及ぶ自己研鑽を積みまれます。



日像上人御歳二十四歳、その集大成としてされたのが、百日間に及び、真冬の鎌倉由比ヶ浜の海水に身を浸し「如来寿量品」を転読、

お題目を数万遍唱えるという荒行です。これが現在中山法華経寺でされている荒行の元になったと言われている。この修行で自身の覚悟を試し無事修行を成就した日像上人はその後、日蓮聖人の足跡を尋ねながら京都を目指します。

その道中に立ち寄るのが新潟・石川・福井です。他宗との法論や疫病を治したことなどで多くの村々が法華経に帰依しました。特に石川・福井は日像上人が直接布教された地であり、日像上人とゆかりがある寺院が掟光寺をはじめ数多くあります。



●京都布教開始

御歳二十六歳で無事京都に着いた日像上人は帝都布教を始めます。日像上人の布教は、京都の商工業の発展に伴う新しい都市づくりと相まって、京都の人々に受け入れられることとなり、のちに室町時代の京都は「法華の巷」とまで謳われるようになります。

しかしながら、その功績は日蓮聖人同様妬み恨みを呼び、それが讒訴という形となって「帝都追放」になります。帝都からの追放は三度(現在の京都府向日市、和歌山県日高町、広島県尾道市)に

も渡りましたが、赦されてまた洛中に戻っては変わらぬ布教を続けました。三度目の追放を許されたあと(日像上人五十四歳)、現在の大本山「妙顕寺」が建立されました(現在の京都市大宮通上長者町辺り)

●ついに国に認められる

洛中に戻りも京都での布教を続けた結果、ついその教化が実り、後醍醐天皇の時、朝廷より「宗旨公許」の許しが出て、妙顕寺も天皇の御祈禱所である勅願寺となりました。初めて日蓮聖人の法華経の教えが世に認められました瞬間です。この時、日像上人六十六歳。日蓮聖人の命を受けて、実に五十二年の歳月が経過していました。

日像上人は御歳七十四歳の十一月十三日の朝四時頃、御入滅されました。そのご生涯は「その徳は宗祖(日蓮聖人)の直弟子六老僧と等しきも、その功は六老僧を超えている」とのちに称されます。

日蓮聖人から弟子へ、弟子から孫弟子へ：と750年間連綿と教えるのバトンが渡ってきたからこそ、今の私たちはお釈迦さまや日蓮聖人を教えを目にすることができるといえます。その当たり前に感謝し、次世代に受け継がれるようにすることが先人達へ報恩ということではないでしょうか